

平成16年9月28日
独立行政法人水資源機構中部支社

コスト縮減策の検討経過

1. 平成15年8月8日、徳山ダム建設事業の事業費について、従来の事業費2,540億円(昭和60年度単価)に対して、コスト縮減320億円、今後の建設費についての5%の縮減努力48億円を踏まえて1,010億円を増額し、事業費を3,550億円(平成15年度単価)に変更することを発表した。

この変更事業費の算定にあたっては、コスト縮減について、今後実施する工事の経費はもとより事務費等の経費を含めて、設計・施工のすべての段階において徹底したコストの見直しを行った。

2. その後、関係機関との協議を踏まえ、ダムとしての安全性と機能を低下させない範囲内で設計等の見直しを行い、さらに20億円の縮減が可能と判断した。
併せて、独立行政法人化を踏まえた経営努力により30億円を縮減することとし、平成15年11月30日に事業費を960億円増の3,500億円(平成15年度単価)に変更することを発表した。

3. 変更事業費を発表して以降も、継続してコスト縮減策の検討を行い、施工計画の見直し、新技術・新工法の導入等によるコスト縮減の取り組みのほか、新たな契約方式の導入を図ってきた。

さらに、平成16年4月以降は、徳山ダム建設事業コスト縮減委員会を設置し、ダム本体、管理設備、付替道路の各ワーキンググループにおいて、次のような視点から、コスト縮減策の検討を行ってきた。

- ・試験施工等を踏まえた新技術・新工法の導入
- ・大型施工機械の導入、試験施工等を踏まえた施工計画の見直し
- ・既施工実績、現地状況等を踏まえた設計の見直し
- ・施設としての機能や安全性の確保等を前提とした管理設備の簡素化
- ・他機関の道路工事における仮設の実績について詳しく調査した結果等を踏まえた積算方法の見直し
- ・試験湛水開始に至るまでの工事工程の短縮

なお、各ワーキンググループの開催状況は表 - 1 に示すとおりであり、これまでに計16回開催している。

表 - 1 ワーキンググループの開催状況

ワーキンググループ名		開催日	開催場所	実施内容
ダム本体	第1回	平成16年4月23日(金)	徳山ダム建設現場	現地調査
	第2回	平成16年5月28日(金)	(財)ダム技術センター	コスト縮減策の検討
	第3回	平成16年6月8日(火)	(財)ダム技術センター	コスト縮減策の検討
	第4回	平成16年7月21日(水)	(財)ダム技術センター	コスト縮減策の検討
	第5回	平成16年8月10日(火)	(財)ダム技術センター	コスト縮減策の検討
	第6回	平成16年9月16日(木)	(財)ダム技術センター	コスト縮減策の検討
管理設備	第1回	平成16年4月23日(金)	徳山ダム建設現場	現地調査
	第2回	平成16年6月8日(火)	(財)ダム技術センター	コスト縮減策の検討
	第3回	平成16年7月21日(水)	(財)ダム技術センター	コスト縮減策の検討
	第4回	平成16年7月30日(金)	(財)ダム技術センター	コスト縮減策の検討
	第5回	平成16年9月17日(金)	(財)ダム技術センター	コスト縮減策の検討
付替道路	第1回	平成16年5月8日(土)	徳山ダム建設現場	現地調査
	第2回	平成16年5月26日(水)	岐阜大学	コスト縮減策の検討
	第3回	平成16年6月8日(火)	岐阜大学	コスト縮減策の検討
	第4回	平成16年7月26日(月)	岐阜大学	コスト縮減策の検討
	第5回	平成16年8月30日(月)	岐阜大学	コスト縮減策の検討